

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		マーケティング戦略					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	江田 浩						
到達目標							
プランニングノウハウを学び、発想力を養い、実践的なマーケティング企画やプロモーション戦略を構築できる力を身につける。さらに、UX・SNS・AIといった現代のデジタル環境を活用し、魅力的なコンテンツ設計と効果的な伝え方を学ぶ。							
講義概要							
飲食、ホテル等様々な事例を通じて企画および戦略とは何かを構造的に理解する力を養う講義。プランニングにはノウハウがあることを理解し、UX設計・SNS戦略・AI応用・プレゼンテーションまで、マーケティングの基本から実践的提案スキルまでを包括的に学ぶ。							
学修成果							
実社会で通用する「企画発想・商品開発・プロモーション設計・発信スキル」が一貫して身につく。特に、ユーザー目線で物事を設計・言語化し、魅力的に伝えるための企画ノウハウを活用したアイデア提案ができるようになる。							
事前学習							
普段見ているSNS動画や投稿、飲食や宿泊サービス等企業のプロモーションに対し、「なぜ記憶に残るのか」「誰にどう訴えているのか」を意識して観察しておくこと。							
事後学習							
授業内で扱った事例を参考に、自分なりに別の案や自分の身の回りで応用できそうな発想などをまとめておく。特に課題・発表回の前にはプレゼン練習やアイデア整理を意識的に行うこと。							
授業計画							
第1回	マーケティングの基本 マーケティングの基本概念(ターゲット・価値・伝え方)を事例を通じて学ぶ。						
第2回	デジタル時代のマーケティング ファネルの基本とSNS時代のファネルの発展形や非線形を実例で学ぶ。						
第3回	演習 マーケティング企画 「認知→興味→行動」までの導線を実際のマーケティング企画で体験的に設計。						
第4回	演習 マーケティングプレゼン マーケティング発想のトレーニングと企画書づくり、プレゼンを体験的に学ぶ。						
第5回	課題の実例と新しいターゲティングを学ぶ ターゲット設定の重要性を説き、同時にスモールマスタージョーティングを学ぶ。						
第6回	企画ノウハウを学ぶ 企画にはノウハウがあることを、実例の分析とペアワークを通じて実感する。						
第7回	企画ノウハウの課題と発表 ジャンプ理論をもとに、自分なりの企画を発想、プレゼン。						
第8回	企画ノウハウ課題の実例 課題で発想したジャンプと実例表現の差を比較・学習する。						
第9回	UX導線とサイト設計 導線の学びと、ブランドの着地点としてのサイト設計。						
第10回	SNSノウハウとPR発想を学ぶ 飲食、ホテルのSNS事例をもとにUGC戦略と、PRの本質を学ぶ。						
第11回	企画書の作り方とプレゼン 企画書の構成を学び、プレゼン話法の基礎を習得。						
第12回	商品開発とプロモーション チームで商品企画からプランニング、SNS、導線を組合せプロモーションを構築。						
第13回	プロモーション課題の実例。 プロモーション課題の実例を学び、講評とフィードバックを通じて学習を最終確認。						
第14回	AIで創るマーケティング ChatGPTを活用して、コンセプトワークからビジュアルライズまでAIを右腕にする体験。						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他							
教科書							
教科書は指定せず、パワーポイント投影型授業。							
参考書							
自身作品や受賞事例を適宜引用。							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		経営戦略					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	鹿谷克巳						
到達目標							
・企業活動を理解し、戦略の全体像を踏まえた上で、経営戦略に関する基本的な知識を身につける ・企業戦略、事業戦略など主要な基礎的な理論や論点を理解する ・経営戦略の知識を用い、具体的な事例や身近な事柄にどのように活用されているのか、実践的な理解を深める							
講義概要							
・企業戦略の全体像を常に俯瞰しながら、個別論点についてわかりやすい講義とする ・講義は理論の説明と共に、実際の企業事例を提示して、関心を高める内容とする ・毎回パワーポイント等で作成した講義レジュメを配布し、事後学習にも活用してもらう ・毎回の講義冒頭に、前回講義の振り返りを行い、学習内容の定着化を促す							
学修成果							
・企業戦略の基礎的な内容を理解し、論理的かつ戦略的な思考パターンを身につける ・日々の行動において、目標の設定、課題の抽出、解決策の検討を心掛ける態度を身につける							
事前学習							
前回講義の復習							
事後学習							
当日講義の復習							
授業計画							
第1回	オリエンテーション:経営戦略とは何か 企業活動の概要、経営戦略の全体像、論理的思考法						
第2回	企業戦略(成長戦略)について 前編 企業戦略とは何か、ドメイン、成長ベクトル、多角化戦略						
第3回	企業戦略(成長戦略)について 中編 製品ライフサイクル、製品ポートフォリオマネジメント、外部組織との連携						
第4回	企業戦略(成長戦略)について 後編 リソースベースドビュー、技術経営・イノベーション、企業の社会的責任、企業統治						
第5回	事業戦略(競争戦略)について 前編 事業戦略とは何か、業界構造の分析、競争回避の戦略						
第6回	事業戦略(競争戦略)について 後編 3つの基本戦略、バリューチェーン、競争地位別戦略						
第7回	機能別戦略について 営業戦略、マーケティング戦略、人事戦略、財務戦略						
第8回	経営理念と経営ビジョンについて 経営理念、経営ビジョン、ミッション・ビジョン・バリュー、企業ブランド						
第9回	環境分析について 内部環境分析、外部環境分析						
第10回	経営計画と経営管理について 経営計画、経営管理、意思決定アプローチ、						
第11回	経営戦略と組織について 戦略と組織構造、組織行動、人的資源管理						
第12回	中小企業の経営戦略 中小企業の現状、課題、展望						
第13回	経営戦略論のラップアップ講義 前編 期末試験に向けた復習解説						
第14回	経営戦略論のラップアップ講義 後編 期末試験に向けた復習解説						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70%					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30%					
その他							
教科書							
毎回講義レジュメを配布							
参考書							
なし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		組織論 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	前田恭孝						
到達目標							
組織論の勉強を教科書にある理論・概念のバズ・ワード的な知識に留めず、それらが土台とする思想・哲学の潮流(合理性から非合理を含むものへシフト)を踏まえ、何をもとに、どういう事象を、どう説明しようとしたか / できなかったかを理解する。							
講義概要							
今日の組織に求められる変化や創造は、従来の組織の理論・概念が土台として来た合理性や機能を中心に置く思想・哲学では説明し切れない。本講義では、Hatchによる組織論の分類(合理性/意味/ポストモダン)をもとに、組織研究がこれにどう取り組んで来たかを学史的に辿る。組織論 I では、1つめの合理性の研究としてSimonとMarchを取り上げ、彼等が組織の何を合理性で説明できないとし、どう補ったかを見る。							
学修成果							
アルバイトや就職後の仕事で遭遇する組織事象に関して、雑誌やネットが安直に決めつけ、引用する理論・概念の表層的な解説を鵜呑みにせず、それらが土台とする思想・哲学まで遡って、自分なりに考え、適切にリサーチ・解釈、理解できるようになる。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
特になし							
授業計画							
第1回	企業寿命の短期化と組織研究に求められる創造・変化の説明						
第2回	土台とする思想:Van de Ven & Pooleの枠組(実体/プロセス×存在論/認識論)						
第3回	組織論の分類①:Scott,Burrell&Morganの分類と彼等が土台とする思想						
第4回	組織論の分類②:Hatchの分類と土台とする思想、本講義の進め方						
第5回	Simon①:組織を説明する意思決定モデル						
第6回	Simon②:限定された合理性とそれを補う探索・満足基準						
第7回	Simon③:限定合理性での活動を可能にする組織ルーティン概念						
第8回	Simon④:目的-機能合理性を超える第2・3の合理性						
第9回	March①:あいまい性下での意思決定(ゴミ箱モデル)						
第10回	March②:ゴミ箱モデルの事例(キューバ・ミサイル危機)						
第11回	March③:組織ルーティン概念の拡張(安定から変化へ)						
第12回	March④:安定・変化を包括説明する学習・行動の循環モデル						
第13回	March⑤:組織の持続を説明する2種類の学習(探索と活用)						
第14回	総括:前期の講義内容の振り返りと質疑応答						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他							
教科書							
授業で使用する資料を事前に配布する。							
参考書							
特になし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		組織論Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	前田恭孝						
到達目標							
組織論の勉強を教科書にある理論・概念のバズ・ワード的な知識に留めず、それらが土台とする思想・哲学の潮流（合理性から非合理を含むものへシフト）を踏まえ、何をもとに、どういう事象を、どう説明しようとしたか / できなかったかを理解する。							
講義概要							
組織論Ⅱでは、Hatchの2つめと3つめの分類（意味/ポストモダン）に繋がる/属する研究として、Weick（ESRモデル、組織化・即興活動、センスメイキング）、Van de Ven & Poole（組織パラドクス）、Giddens（構造化理論）、Baxter（関係弁証法）、Bartunek（対話）などを取り上げ、これらが従来の研究の何を問題としたか、どのようにそれを乗り越えようとしたかを概観する。							
学修成果							
アルバイトや就職後の仕事で遭遇する組織事象に関して、雑誌やネットが安直に決めつけ、引用する理論・概念の表層的な解説を鵜呑みにせず、それらが土台とする思想・哲学まで遡って、自分なりに考え、適切にリサーチ・解釈、理解できるようになる。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
特になし							
授業計画							
第1回	Weick①：機械的システムの限界と第2世代サイバネティクス						
第2回	Weick②：イナクトメントとESRモデル						
第3回	Weick③：組織化(organizing)と即興活動						
第4回	Weick④：センス・メイキング、組織認識論						
第5回	組織文化論①：合理論の限界と組織文化論の登場						
第6回	組織文化論②：強い文化論の限界とマルチ文化論						
第7回	現在の企業の抱える問題と従来の組織論の限界						
第8回	新たな組織の説明アプローチ①：Hanann & Freemanの個体群生態モデル						
第9回	新たな組織の説明アプローチ②：Nelson & Winterの組織進化モデル						
第10回	新たな組織の説明アプローチ③：Tushman & O'Reillyの両利き論						
第11回	ポストモダン①：Van de Ven & Pooleの組織パラドクス論とその系譜						
第12回	ポストモダン②：Giddensの構造化理論と関連研究						
第13回	ポストモダン③：Baxterの関係弁証法、Bartunekの対話論						
第14回	総括：前期の講義内容の振り返りと質疑応答						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60					
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40					
その他		0					
教科書							
授業で使用する資料を事前に配布する。							
参考書							
特になし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		消費者行動論					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 有弥						
実務経験							
国内メーカーのマーケティング部にて新規商品の開発、販売促進、生産・販売・管理業務に携わり、その後、国内外の大学・短期大学・専門学校にてマーケティング関連科目を担当する共に、国内外の学生募集業務を含む各種マーケティング業務に携わっていました。							
到達目標							
講義を通じて消費者心理を理解し、消費者の行動パターンを先読みするための先見性を身に付けていきます。また、先読みした上でどのように対応するべきかを考える力(創造力)も同時に習得することを到達目標とします。							
講義概要							
消費者理解は、ビジネスの基本です。消費者が商品やサービスをいかにして選択し、購買行動をとるのか。企業は消費者の行動を理解し、スピーディな対応が求められています。なぜ、売れる商品と売れない商品が存在するのか。本講義では、消費者の購買行動を体感的に理解するために、消費者心理をはじめ最新の新聞やビジネス誌の記事を中心に、必要な基礎知識も合わせて学んでいきます。							
学修成果							
講義を通じて、先見性を身に付け、お客様一人おひとりの行動パターンを先読みすることの重要性の理解、また創造力を持ってお客様の様々なNeeds,Wants, Valueへの対応をすることの重要性を学び、自らが行動できるようなることを学修成果とします。							
事前学習							
特に必要はない							
事後学習							
講義内で学んだ内容を講義後に復習すること。そのためには、講義でのノートテイキングがとても重要です。自分のノートを活用し、講義の復習をしてください。							
授業計画							
第1回	イントロダクション 消費者行動論とは・・・ ・消費者理解の重要性について・プロダクト・アウト/マーケット・インについて						
第2回	色や形にときめく消費者心理① ・「選択基準」と「他者視点」について ・色と形が与える影響について						
第3回	色や形にときめく消費者心理② ・決定回避の法則/現状維持の法則について ・同調化/差異化について ・Z理論について						
第4回	色や形にときめく消費者心理③ ・知覚の選択/知覚の意味性について ・購買行動と色の関係について						
第5回	日本の消費者と米国の消費者の比較 ロイヤリティの理解① ・なぜ日本の消費者は世界で一番扱いが難しいのか？ ・ロイヤリティについて						
第6回	ロイヤリティの理解② ・ロイヤリティを高める方法について ・ブランド・ロイヤリティについて ・接続性以前の時代のカスタマージャ						
第7回	消費者の購買パターン ・非計画購買について ・衝動買いを起こさせる方法について ・事例研究(スーパーマーケットにおける消費者の購買行動)						
第8回	オピニオンリーダー① ・生まれた世代によって何もかもが違う ・オピニオンリーダーについて						
第9回	オピニオンリーダー② ・社会的要因(準拠集団)について ・個人的要因(自己イメージ)について						
第10回	オピニオンリーダー③ ・心理的要因(マズローの欲求階級)について ・マクレガーのX理論Y理論について ・選択的露出・選択的保持						
第11回	消費者の5段階プロセス ・問題認識、情報探索、代替品評価、購買決定、購買後の評価						
第12回	商品の購入をためらう心理とは・・・ ・他者視点の意識について ・「言い訳」心理について ・余計なモノまで買ってしまう心理について						
第13回	得たい欲求・避けたい欲求 ・得たい欲求について ・避けたい欲求について						
第14回	顧客心理を利用したテクニック ・認知的不協和について ・ブラシーボ効果について ・ザイアンス効果について ・カリギュラ効果について ・初頭効果と親近効果について ・ツァイガルニク効果について						
第15回	学期のまとめ ケーススタディーを通じて学期のまとめと復習						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		40					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		60	講義内課題20%・講義参加度(出席を含む)40%				
その他							
教科書							
特になし							
参考書							
「消費者行動の知識」(日経文庫)青木幸弘 著、「ショッピングの科学」(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)バコ・アンダーヒル 著 「鈴木敏文の『商売の人間学』」なぜ、買うのか売れるのか」(大和書房)勝美明 著、「鈴木敏文の『統計心理学』」(日経ビジネス人文庫)勝見明 著							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		ビジネスプレゼンテーションⅠ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	篠崎 誠二 ・ 飯田 哲生						
到達目標							
自身の自己PR を簡潔かつ有効に行うための総合的なプレゼンテーションスキル(題材の選び方資料作成、話し方)を習得します。また、企業研究において、必要な情報収集の方法や研究内容等を学び、プレゼンテーションに活かすことを目標とします。							
講義概要							
1年次に学んだ基本的なプレゼンテーションの知識とスキルを、実践で活用できる能力を養うために講義を進めていきます。2年次の前期の進路決定活動に有効な自己PR や企業を受験する際の企業研究に必要な知識を養うために、就職活動を題材としたテーマを中心に、プレゼンスキルを学んでいきます。							
学修成果							
自己PR や企業研究をプレゼンテーションスキル向上のための題材とすることで、実際の就職活動における面接試験やグループディスカッションに合格することを成果とします。							
事前学習							
自己PR や志望理由作成のための事前情報収集							
事後学習							
自己PR や志望理由作成後のプレゼン資料作成と履歴書、エントリーシート作成等							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(授業の進め方等)ケーススタディ①						
第2回	ビジネス文書の書き方について(メール)1						
第3回	ビジネス文書の書き方について(企画書)2						
第4回	自己PR 作成のためのプレゼンテーション、資料作成 ①						
第5回	自己PR 作成のためのプレゼンテーション、資料作成 ②						
第6回	自己PR 作成のためのプレゼンテーション、資料作成 ②						
第7回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成①						
第8回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成②						
第9回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成③						
第10回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成④						
第11回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成⑤						
第12回	グループディスカッション、実戦形式その①						
第13回	グループディスカッション、実戦形式その②						
第14回	グループディスカッション、実戦形式その③						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
特になし							
参考書							
特になし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		ビジネスプレゼンテーションⅡ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	篠崎 誠二 ・ 飯田 哲生						
到達目標							
チームプレゼンテーションを行うにあたって、情報収集、資料作成、プレゼンテーションの構成、その他必要な作業をチーム内で分担しつつ、最後はチームとして一つのプレゼンテーションにまとめ上げることを目標とします。							
講義概要							
今までに学んだプレゼンテーションの知識やスキルを、実際のビジネスで有効に使えるように講義を進めます。特にチームでのプレゼンテーションについて学習し、全員が共通のテーマに沿ってケーススタディを学び、グループで討論し、プレゼンテーションを作成し発表します。その中で、社会に出た時に必要なコミュニケーション力や、相手を納得させるための論理的な発言など、高度なテクニックを学んでいきます。							
学修成果							
チームでのプレゼンテーションの企画、準備、発表を通じて、実社会や企業において必要なプレゼンテーションの実施が可能となります。また、授業におけるチーム内のコミュニケーションが、実際の仕事においても有効となります。							
事前学習							
チームプレゼン資料作成に必要な情報収集							
事後学習							
授業内で実施した資料作成等の見直しや修正作業							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(授業の進め方等)、プレゼンテーション作成のための共通テーマの説明						
第2回	プレゼンテーション作成のためのグループ分けとグループメンバー内の共通理解について						
第3回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業①						
第4回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業②						
第5回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業③						
第6回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業④						
第7回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業⑤						
第8回	チームプレゼンテーション中間発表と評価作業①						
第9回	チームプレゼンテーション中間発表と評価作業①						
第10回	チームプレゼンテーション修正作業と最終プレゼン資料作成①						
第11回	チームプレゼンテーション修正作業と最終プレゼン資料作成②						
第12回	チームプレゼンテーション最終発表と評価作業①						
第13回	チームプレゼンテーション最終発表と評価作業②						
第14回	チームプレゼンテーション最終発表と評価作業③						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
特になし							
参考書							
特になし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		経営シミュレーションⅠ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
意思決定能力、データ分析能力、問題発見・解決能力を習得します。特に内部環境の変化と経営上の問題点についての分析力を高め、実践的な意思決定方法の習得を目標とします。							
講義概要							
本講義では、1年生で学んだ経営、マーケティング、財務関連知識及び2年生で学んだ経営戦略、組織論などの知識を活かし、グループワーク演習を通じて企業経営のシミュレーションを行います。その中で、企業における意思決定能力やデータ分析能力の向上を図ります。							
学修成果							
ビジネスに必要な意思決定能力、データ分析能力、問題発見・解決能力を習得することで、将来ビジネスに携わるようになったときに直面する様々な場面における対応力が身につきます。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
「BG21」の結果を検証し、次の戦略を考える							
授業計画							
第1回	経営シミュレーション講義の概要説明 「BG21」ルール説明						
第2回	練習（初級編） 仕入 販売シミュレーション（意思決定）						
第3回	練習（初級編） 第1期 結果分析 第2期 仕入・販売（意思決定）						
第4回	練習（初級編） 第2期 結果分析 問題点の発見と解決策						
第5回	本演習（初級編） 第1期 仕入・販売シミュレーション（意思決定）						
第6回	本演習（初級編） 第1期 結果分析 第2期 仕入・販売（意思決定）						
第7回	本演習（初級編） 第2期 結果分析 中間報告レポート作成						
第8回	本演習（初級編） 第2期 結果分析 中間報告レポート作成						
第9回	本演習（初級編） 第3期 結果分析 第4期 仕入・販売（意思決定）						
第10回	本演習（初級編） 第4期 結果分析 通期分析						
第11回	本演習（初級編） 通期 最終報告レポート作成						
第12回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション準備①						
第13回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション準備②						
第14回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション 本発表						
第15回	確認テスト						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60	第15回に実施する確認テスト				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	チームプレゼンテーションの本発表内容				
その他							
教科書							
適宜、プリント等を配布							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		経営シミュレーションⅡ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
企業経営者として、意思決定ができるようになる。その際に必要なビジネススキルを習得する。							
講義概要							
経営をシミュレーションする最も効果的なものに、ケーススタディがあります。本講義は、ハーバードビジネススクールのケースを使用し、意思決定について経験していきます。テキストを「GODIVA JAPAN」とし、2年間学んできたビジネス知識を活用し、意思決定していきます。							
学修成果							
経営学・財務・経済学・組織論・マーケティングなど2年間学んできた知識を活用し、課題ケースの状況に陥った時、自分自身が意思決定できるようになる							
事前学習							
特になし							
事後学習							
学習内容の復習							
授業計画							
第1回	ケーススタディとは何か。ケーススタディの重要性について						
第2回	ケース「GODIVA JAPAN」の読み合わせ① 日本語の語彙を確認						
第3回	ケース「GODIVA JAPAN」の読み合わせ② 日本語の語彙を確認						
第4回	ケース「GODIVA JAPAN」の読み合わせ③ 日本語の語彙を確認						
第5回	GODIVAの歴史について						
第6回	日本におけるGODIVA 現状分析(SWOT、PEST)						
第7回	日本におけるGODIVA 現状分析(3C)						
第8回	日本におけるGODIVA 日本におけるGOVIDA 現状分析(7S モデル)						
第9回	日本におけるGODIVA 問題発見						
第10回	発見した問題についてレポートにまとめる作業						
第11回	意思決定に向けてのグループディスカッション①						
第12回	意思決定に向けてのグループディスカッション②						
第13回	プレゼンテーション準備(意思決定の発表)						
第14回	グループでのプレゼンテーション発表						
第15回	確認テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	第15回に実施する確認テスト				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	グループでのプレゼンテーションの発表内容				
その他							
教科書							
適宜、プリント等を配布							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		卒業演習 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
多種多様な個人所得を10種類の所得に分類することができ、その10種類の所得について、所得金額の計算式に従って計算ができることを目標とします。							
講義概要							
我々の最も身近な税金の一つである「所得税」についての知識と計算スキルについて学びます。この講義では所得税の一連の計算のうち、「10種類の所得」分類と各種所得金額の計算方法と課税標準の計算までの範囲を講義します。それ以降の計算手続については、卒業演習Ⅱで講義します。							
学修成果							
所得税の概要を理解した上で、身近な給与所得の課税方法や年末調整、確定申告などの手続ができるようになります。他の種類の所得については所得分類と金額の計算が可能となります。そして、全経所得税法3級の合格を学習成果としての目標とします。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
プリントの復習と過去問題の復習							
授業計画							
第1回	講義概要ガイダンス: 所得税を学ぶ目的と重要性の説明、所得税の概要と所得税の仕組み、所得税の基本的な計算についての解説						
第2回	10種類の所得分類(利子所得～雑所得)と非課税所得について: 所得の10種類を覚えるとともに、その概要を理解し、各種所得について典型的な事例を紹介						
第3回	課税方法(総合課税・分離課税)の違い、申告・徴収方法等: 総合課税と分離課税の違いの解説、納付方法については申告と源泉徴収の違いについて解説						
第4回	所得の分類と各種所得金額の計算①(利子所得、配当所得①): 利子所得の範囲と課税方法、計算方法、配当所得の範囲と課税方法、計算方法について解説						
第5回	所得の分類と各種所得金額の計算②(配当所得②、不動産所得①): 配当所得の特別な課税方法についての解説、不動産所得の範囲について解説						
第6回	所得の分類と各種所得金額の計算③(不動産所得②): 不動産所得の金額の計算における必要経費の内容についての解説						
第7回	所得の分類と各種所得金額の計算④(事業所得①): 事業所得の範囲と収入金額についての解説						
第8回	所得の分類と各種所得金額の計算⑤(事業所得②): 事業所得の金額の計算における必要経費の内容、及び青色申告制度について解説						
第9回	所得の分類と各種所得金額の計算⑥(給与所得、退職所得): 給与所得の範囲と課税方法、計算方法の解説、退職所得の範囲と分離課税の概要についての解説						
第10回	所得の分類と各種所得金額の計算⑦(山林所得、譲渡所得①): 山林所得の範囲と分離課税の概要についての解説、譲渡所得の範囲と総合課税、分離課税扱いの違いについて解説						
第11回	所得の分類と各種所得金額の計算⑧(譲渡所得②): 土地・建物等の資産の譲渡による譲渡所得(分離課税)の計算についての解説						
第12回	所得の分類と各種所得金額の計算⑨(一時所得、雑所得): 一時所得の範囲と所得金額の計算、雑所得の範囲と所得金額の計算についての解説						
第13回	10種類の所得の総まとめと課税標準の計算①: 10種類の所得についての所得金額の計算と課税方法についての総復習						
第14回	10種類の所得の総まとめと課税標準の計算②: 所得税計算の第2段階である課税標準についての解説と計算事例						
第15回	定期試験						
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	全経所得税法3級試験における各種所得金額の計算に準じた内容				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	課題の提出状況による評価				
その他							
教科書							
オリジナル「所得税法サブノート」、令和7年版「入門税法」(清文社)							
参考書							
令和7年度版演習所得税法(清文社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		卒業演習Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
所得税の一連の計算における所得控除額の計算、納付税額の計算についての実践的なスキル習得と申告納税制度や源泉徴収などの仕組みの理解を目標とします。							
講義概要							
我々の最も身近な税金の一つである「所得税」についての知識と計算スキルについて学びます。卒業演習Ⅰで学習した続きとして、所得控除、税額控除、所得税の納付税額の計算まで、所得税の一連の計算方法や確定申告について講義します。また、所得税以外の税金の概要についても講義します。							
学修成果							
所得税の一連の計算や、給与所得者の年末調整、医療費控除や寄付金控除などの所得控除を受けるための確定申告手続きが独力で可能となります。また、全経所得税法3級の合格を学習成果の目標とします。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
プリントの復習と過去問題の復習							
授業計画							
第1回	卒業演習Ⅰで学習した、所得分類と各種所得金額の計算の総復習						
第2回	所得控除額の計算①(所得控除額の概要、雑損控除、医療費控除):所得控除の意義についての詳細を解説し、雑損控除と医療費控除の計算方法の説明						
第3回	所得控除額の計算②(生命保険料控除、地震保険料控除):生命保険と損額保険の概要説明と生命保険料控除、地震保険料控除の計算方法の説明						
第4回	所得控除額の計算③(社会保険料控除、寄付金控除):社会保険の概要説明と社会保険料控除の計算方法、ふるさと納税の説明と器具均衡所の計算方法の説明						
第5回	所得控除額の計算④(障害者控除、寡婦控除、ひとり親控除、勤労学生控除):障害者控除、寡婦控除、ひとり親控除、勤労学生控除の計算方法の説明						
第6回	所得控除額の計算⑤(配偶者控除、扶養控除、基礎控除):配偶者控除、配偶者特別控除、扶養控除、基礎控除の計算方法の説明						
第7回	課税総所得金額の計算の総合演習①(例題の演習と解答解説):例題を使用して課税総所得金額の計算を説明						
第8回	課税総所得金額の計算の総合演習②(例題の演習と解答解説)過去問題を使用して課税総所得金額の計算を説明						
第9回	各種税額控除の意義と計算(例題の演習と解答解説):配当控除、住宅取得等特別控除の計算方法の解説						
第10回	納付税額の計算(例題の演習と解答解説):所得税の最終納付税額の計算方法の解説						
第11回	所得税の申告、納付の手続、その他の手続等:所得税の申告と納付に関する基本ルールとペナルティ等についての解説						
第12回	年末調整及び確定申告実務(確定申告Webサイトの紹介、利用方法について):年末調整と確定申告のWeb申請の実務についての解説						
第13回	租税概論①(税金の目的、納税義務者、税金の分類):所得税以外の各種租税の紹介と概要解説						
第14回	租税概論②(税金の体系、法人税・相続税の概要):法人税・相続税の概要解説						
第15回	定期試験						
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	全経所得税法3級の試験範囲に準じた内容				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	課題の提出状況による評価				
その他			全経所得税法3級を受験し、その合否結果を参考				
教科書							
オリジナル「所得税法サブノート」、令和7年版「入門税法」(清文社)							
参考書							
令和7年度版演習所得税法(清文社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		卒業演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
日本の租税制度について体系的な知識を獲得することで、「家計」、「企業」、「政府」の3経済主体の関係性についての理解を深めます。また、簿記・会計の知識と合わせて「法人税」の基礎知識を習得することで企業の経理業務に必要な企業会計と税務会計についての知識を習得します。							
講義概要							
前半の講義では「日本の租税制度」について学習を進めます。「税金の意義」、「税金の目的」、「納税の義務」、「税金の分類」、「税金の体系」等、日本の租税制度を俯瞰しながら日本の税金を体系的に学びます。後半の講義では企業の税金である「法人税」の基本について学習します。「法人税の概要」、「法人税法上の所得」、「法人税の計算方法の概要」、「法人税の申告、納付」について学びます。							
学修成果							
後半の講義で法人税を学習することで、1年次から学んできた「簿記」、「会計学」と併せて、一般の企業の経理業務に必要な「税務会計」の分野においても、知識のみならず実務的な業務の流れを理解することが可能となります。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
プリントの復習と過去問題の復習							
授業計画							
第1回	租税概論①:税金の意義(税金が必要な理由)、税金の根拠(実質的根拠は?)、税金の目的について						
第2回	租税概論②:納税の義務、税金の分類(国税・地方税、直接税・間接税等)について						
第3回	租税概論③:税金の体系(国税である各種税金、地方税である各種税金)について						
第4回	租税概論④:課税方法(総合課税・分離課税)、徴税方式(申告納税・賦課課税・源泉徴収)、税率について						
第5回	租税概論⑤:租税概論①～租税概論④の総復習						
第6回	法人税法①:納税義務者と法人の種類、法人の課税所得等の範囲、法人の事業年度及び納税地について						
第7回	法人税法②:法人税法上の所得と益金・損金について						
第8回	法人税法③:法人税法上の損金について						
第9回	法人税法④:法人税計算における「益金不算入」について						
第10回	法人税法⑤:法人税計算における損金の額について①						
第11回	法人税法⑥:法人税計算における損金の額について②						
第12回	法人税法⑦:法人税計算における損金の額について③						
第13回	法人税法⑧:法人税の税額の計算と各種控除について						
第14回	法人税法⑨:法人税の申告、納付について						
第15回	定期試験						
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	講義で解説した内容を基準とした確認テスト				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	課題の提出状況による評価				
その他							
教科書							
令和7年版「入門税法」(清文社)							
参考書							
令和7年度版演習所得税法(清文社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		ホスピタリティ経営Ⅰ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
ビジネスにおいて抽象的、曖昧に使用されているサービスとホスピタリティの違いを理解する。また、ロボット化やAI化が急激に進展するビジネス社会において、肉体労働、頭脳労働に加え、人間だけが行うことのできる感情労働の重要性を再認識する。							
講義概要							
一般的に「ホスピタリティ」とは、「おもてなし」や「心配り」などサービスの延長線上にあるものとして混同、誤解されている場合が多い。本講義では、サービスとホスピタリティの明確な違いを理解し、「相手の立場になって考え行動する」という対人関係のマネジメント能力を身に付ける。							
学修成果							
個人としてだけでなく、組織行動の中でホスピタリティの重要性を理解、実践できるようになることで、学生がどのような職業についても、個々のステークホルダーと良好な関係性を築き、組織に貢献できる人材となる。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
授業ノートの見直しと課題実施							
授業計画							
第1回	講義オリエンテーション なぜ「ホスピタリティ」を学ぶのか？						
第2回	なぜ「ホスピタリティ経営」が重要なのか 企業を取り巻く経営環境の急激な変化						
第3回	なぜ「ホスピタリティ経営」が重要なのか 企業を取り巻く経営環境の急激な変化						
第4回	「サービス」と「ホスピタリティ」の違い サービスは技術、ホスピタリティは対人関係のマネジメント能力						
第5回	ホスピタリティとは？① 「相手の立場になって考え行動する」こと						
第6回	ホスピタリティとは？② 相手とは誰？相手の立場になって考えるとは？行動するとは？						
第7回	ホスピタリティの5要素 「関与」「共感」「敬意」「誠実」「利他」						
第8回	ホスピタリティの要素①「関与」について 顧客の状況に関心を持つ＝顧客をよく知る						
第9回	ホスピタリティの要素②「共感」について 顧客の気持ち(喜怒哀楽)を感じ取る						
第10回	ホスピタリティの要素③「敬意」について 顧客の文化や価値観を尊重する						
第11回	ホスピタリティの要素④「誠実」について 私利私欲をまじえず、真心をもって顧客や物事に対する						
第12回	ホスピタリティの要素⑤「利他」について 顧客の役にたとうとする(利己と利他の違い)						
第13回	ホスピタリティが経営に与える影響 ビジネスにおけるホスピタリティとは関係性のマネジメント能力						
第14回	講義のまとめ 期末試験前の振り返り(重要な語句・考え方の復習)						
第15回	期末試験						
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	講義中に配布したプリント及び開設した内容から出題				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	課題提出状況、出席状況により評価				
その他							
教科書							
特に指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
特になし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		会計学総論 I					
開講期	2025年	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員		鈴木啓悟					
実務経験							
上場企業において財務・経理・人事関連業務を9年の実績有。企業コンサルタントとして経営指導・財務分析で33年の実績有。							
到達目標							
1年次の簿記・会計処理の方法論から、財務3表の根拠と作成方法を学びかつ、企業における決算の意義である「ステークホルダー」に対する「アカウンタビリティ」の重要性を理解できるようになる。							
講義概要							
1年次に学んだ簿記の知識を生かし、企業会計原則をはじめとした簿記会計における会計処理の根拠となる規定を学習する。特に、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の作成の根拠・仕方を詳細に学び、かつ単なる会計原則の暗記や抽象的解釈にならないように、仕訳や財務3表の作成の仕方を、図解や例題問題を交えて学習理解を深める。また、理解度の確認のために質疑応答による双方向の講義進行に努める。							
学修成果							
簿記・会計処理の方法論から、財務3表の根拠と作成方法を学ぶことで、様々な企業における仕訳から決算までの「会計実務」に役立つと同時に、財務・会計の基本知識の習得で「ビジネス会計検定試験3級」の資格獲得に生かせる。							
事前学習							
講義内容にある会計・勘定科目の用語理解とテキスト内の計算式の練習 (0.5h)							
事後学習							
講義内容で学んだ会計・勘定科目の用語理解とテキスト内計算式の練習 (1h)							
授業計画							
第1回	第1章 「財務諸表とは」 第1・2節 貸借対照表のしくみ 会計の基本プロセスと財務諸表分析						
第2回	第1章 「財務諸表とは」 第3・4節 財務諸表の体系と開示媒体 会社法と金融商品取引法の目的						
第3回	第2章 「貸借対照表」 第1節 貸借対照表のしくみ						
第4回	第2章 「貸借対照表」 第2節 資産とは						
第5回	第2章 「貸借対照表」 第3節 負債とは						
第6回	第2章 「貸借対照表」 第4節 純資産とは						
第7回	第3章 「損益計算書」 第1節 損益計算書のしくみ						
第8回	第3章 「損益計算書」 第2節 損益計算書のルール						
第9回	第3章 「損益計算書」 第3節 売上総利益						
第10回	第3章 「損益計算書」 第4節 営業利益とは						
第11回	第3章 「損益計算書」 第5節 経常利益とは						
第12回	第3章 「損益計算書」 第6節 税引前当期純利益とは						
第13回	第3章 「損益計算書」 第7節 当期純利益とは①						
第14回	第3章 「損益計算書」 第7節 当期純利益とは②						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級」(中央経済社)							
参考書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式過去問題集3級」(中央経済社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年生					
科目名		会計学総論Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員 鈴木啓悟							
到達目標							
1年次の簿記・会計処理の方法論から、財務3表の根拠と作成方法を学びかつ、企業における決算の意義である「ステークホルダー」に対する「アカウントビリティ」の重要性を理解できるようになる。							
講義概要							
1年次に学んだ簿記の知識を生かし、企業会計原則をはじめとした簿記会計における会計処理の根拠となる規定を学習する。特に、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の作成の根拠・仕方を詳細に学び、かつ単なる会計原則の暗記や抽象的解釈にならないように、仕訳や財務3表の作成の仕方を、図解や例題問題を交えて学習理解を深める。また、理解度の確認のために質疑応答による双方向の講義進行に努める。							
学修成果							
簿記・会計処理の方法論から、財務3表の根拠と作成方法を学ぶことで、様々な企業における仕訳から決算までの「会計実務」に役立つと同時に、財務・会計の基本知識の習得で「ビジネス会計検定試験3級」の資格獲得に生かせる。							
事前学習							
講義内容にある会計・勘定科目の用語理解とテキスト内の計算式の練習(0.5h)							
事後学習							
講義内容で学んだ会計・勘定科目の用語理解とテキスト内計算式の練習(1h)							
授業計画							
第1回	第1章「財務諸表とは」 分析	第1・2節	貸借対照表のしくみ	会計の基本プロセスと財務諸表			
第2回	第1章「財務諸表とは」 の目的	第3・4節	財務諸表の体系と開示媒体	会社法と金融商品取引法			
第3回	第2章「貸借対照表」	第1節	貸借対照表のしくみ				
第4回	第2章「貸借対照表」	第2節	資産とは				
第5回	第2章「貸借対照表」	第3節	負債とは				
第6回	第2章「貸借対照表」	第4節	純資産とは				
第7回	第3章「損益計算書」	第1節	損益計算書のしくみ				
第8回	第3章「損益計算書」	第2節	損益計算書のルール				
第9回	第3章「損益計算書」	第3節	売上総利益				
第10回	第3章「損益計算書」	第4節	営業利益とは				
第11回	第3章「損益計算書」	第5節	経常利益とは				
第12回	第3章「損益計算書」	第6節	税引前当期純利益とは				
第13回	第3章「損益計算書」	第7節	当期純利益とは①				
第14回	第3章「損益計算書」	第7節	当期純利益とは②				
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級」(中央経済社)							
参考書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式過去問題集3級」(中央経済社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年生					
科目名		企業統治論Ⅰ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	白石一憲						
到達目標							
経営陣を監視するステークホルダーの役割責任とは何か？その中でも特に株主や社外取締役と経営陣の利害関係を把握した上で、企業統治の有効性と課題を理解できるようにする。							
講義概要							
2006年の商法改正で企業統治が法制化され、2015年にコーポレートガバナンス・コードが設定された。このように比較的新しい仕組・制度であり、本講義では様々な実例を交えて、経営陣の暴走はなぜ起こるのか？企業としてどのように取り組むべきか、という基本的な考え方を学ぶ。							
学修成果							
就職活動を行う際に検討先の企業のコーポレートガバナンス体制を調べることで、その企業のガバナンス体制がどの程度しっかりしたものになっているかを判断することができるようになる。							
事前学習							
前回の授業内容を復習した上で次回の授業に出席する							
事後学習							
不明点や疑問などを整理し次回の授業で質問・確認する							
授業計画							
第1回	「企業統治論概要」 ステークホルダーとは誰か？その役割責任は何か？						
第2回	「企業を支配するのは誰か？」 株主支配論、経営者支配論、金融支配論の論点について						
第3回	「企業の不祥事Ⅰ」 東芝の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？						
第4回	「モラルハザード」 株主と経営陣の利害関係の対立について						
第5回	「エージェンシー理論」 モラルハザードが起きる要因は何か？						
第6回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）						
第7回	「中間テスト」 第1回～第5回の講義内容の理解度を確認する						
第8回	「リスクマネジメント」 モラルハザードに対するリスクマネジメントとは						
第9回	「企業の不祥事Ⅱ」 日産自動車の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？						
第10回	「上場企業のガバナンス体制」 ガバナンスコードと上場について						
第11回	「非上場企業のガバナンス体制」 非上場企業のガバナンス体制とその効果について						
第12回	「海外のコーポレートガバナンス①」 アメリカ・ドイツ・北欧諸国のガバナンス体制						
第13回	「海外のコーポレートガバナンス②」 韓国・中国のガバナンス体制						
第14回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り						
第15回	「期末試験」 企業統治の実際と課題に関する理解度を確認する						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60	期末テストの点数				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	中間テストの理解度、授業の参加度、出席率				
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
新聞、ビジネス雑誌などから適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年生					
科目名		企業統治論Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	白石一憲						
到達目標							
実際に日本企業で働く際に、どのような言動がコンプライアンス違反になるのか、自分自身がコンプライアンス違反を起こさないようにするために、どのような言動に注意すべきか？を理解できるようになる。							
講義概要							
企業の暴走を防ぐためには経営陣に対する監督強化だけでなく、そこで働く従業員の法令やルール の遵守を強化することも非常に重要となってくる。そこで企業統治論の一環として企業運営に関わる主要な法令の理解と、コンプライアンス違反事例を通して企業組織の基本的な対応を学ぶ。							
学修成果							
実際に日本企業で働く際に、自分自身がコンプライアンスを遵守した働き方ができるようになる。また上司や周りの同僚のコンプライアンス違反を発見した場合、自分自身はどのような行動を起こすべきか？判断できるようになる。							
事前学習							
前回の授業内容を復習した上で次回の授業に出席する							
事後学習							
不明点や疑問などを整理し次回の授業で質問・確認する							
授業計画							
第1回	「コンプライアンスの概要」 なぜ人は不正に走るのか？						
第2回	「労働法」 36協定や過労死ラインの理解と解雇のルール						
第3回	「パワハラ・セクハラ」 パワハラ・セクハラ の定義と事例						
第4回	「不正競争防止法」 燃費偽装やリコール隠しの背景とその事例						
第5回	「独占禁止法」 カルテル・談合の禁止理由とその事例						
第6回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）						
第7回	「中間テスト」 第1回～第5回の講義内容の理解度を確認する						
第8回	「知的財産法①」 産業財産権の種類とそれぞれの実例						
第9回	「知的財産法②」 著作権の種類とそれぞれの実例						
第10回	「金融商品取引法①」 インサイダー取引や虚偽記載について						
第11回	「金融商品取引法②」 企業の法律違反による業績悪化とその後の再生について						
第12回	「個人情報保護法」 個人情報の定義と情報漏えいの実例						
第13回	「海外のコンプライアンス違反」 欧米やアジアのコンプライアンス状況について						
第14回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り						
第15回	「期末試験」 コンプライアンスの実際と課題に関する理解度を確認する						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60	期末テストの点数				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	中間テストの理解度、授業の参加度、出席率				
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
新聞、ビジネス雑誌などから適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		ビジネス英語Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	京塚在裕美						
実務経験							
通訳案内士としてインバウンドの観光通訳に携わる一方、ビジネスの現場では商談通訳や展示会通訳を担当してきた。また、本校及び系列の短期大学において、時事英語、観光英語、ビジネス英語の指導を行っている。							
到達目標							
基礎的な英語力はもちろんのこと、日本の風土や地理、歴史などの文化遺産や産業についての理解を深め、英語と日本語の両方を用いて効果的かつ適切にアウトプットを行うことができる知識と技能を身につける。 観光の現場で応用できる実践力を鍛え、観光英検2級もしくは3級の取得を目指す。							
講義概要							
ビジュアル教材や指定の教科書を有効に活用し、日本の文化や歴史、社会の仕組み、観光ビジネスの現状と課題を学ぶ。特に観光ホスピタリティ分野での実際のシチュエーションを想定し、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能をバランスよく学習する。 観光英検2級もしくは3級の取得を目指し、ペアワークやグループワークも取り入れながら、実践的なアウトプットの方法を学んでいく。							
学修成果							
観光英検2級もしくは3級の取得を目指す。また、特にインバウンド観光や国際ビジネスの分野での実践的な英語によるコミュニケーション力を養い、ホスピタリティの分野での即戦力を身につける。							
事前学習							
教科書を精読し、新しい英単語や英語表現をチェックしておく。							
事後学習							
授業での学習内容を再度見直し、音読やライティングなどで定着を図る。 観光英語検定試験に向けて過去問などで練習を行う。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション（講義の内容、目標、評価基準等を説明） 英語での自己紹介						
第2回	コミュニケーション英語の基礎① 自己と周囲の環境について語る英語表現、リスニング練習						
第3回	コミュニケーション英語の基礎② 趣味や娯楽について語る英語表現、リスニング練習						
第4回	コミュニケーション英語の基礎③ 将来の目標について語る英語表現、リスニング練習						
第5回	コミュニケーション英語の基礎④ 出身地や家族について語る英語表現、リスニング練習						
第6回	コミュニケーション英語の基礎⑤ 人気の観光地や観光資産について語る英語表現、リスニング練習						
第7回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling in General] Unit1: Travel①						
第8回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling in General] Unit1: Travel②						
第9回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling Abroad] Unit2: Jobs and People①						
第10回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling Abroad] Unit2: Jobs and People②						
第11回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling Abroad] Unit3: Getting on the Plane①						
第12回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling Abroad] Unit3: Getting on the Plane②						
第13回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling Abroad] Unit4: At the Immigration and Customs①						
第14回	観光英語の現場での基礎英語表現[Traveling Abroad] Unit4: At the Immigration and Customs②						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		割合(%)	授業で学習した内容に基づき、リスニング問題とリーディング問題を合わせた試験				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	出席状況および授業中での積極性、提出物の内容				
その他							
教科書							
English for Tourism Basic(観光英検センター刊)							
参考書							
英語で伝える日本の文化・観光・世界遺産(三修館出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		ビジネス英語Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	京塚在裕美						
到達目標							
前期で行った基礎的な英語力の定着をもとに、引き続き日本の風土や地理、歴史などの文化遺産や産業についての理解を深め、英語と日本語の両方を用いて効果的かつ適切にアウトプットを行うことができる知識と技能を身につける。観光の現場で応用できる実践力を鍛え、観光英検2級もしくは3級の取得を目指す。							
講義概要							
前期での学習内容の応用として、ビジュアル教材や指定の教科書を有効に活用し、インバウンド観光ビジネスなどの国際ビジネスの現状と課題を学ぶ。リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能をバランスよく学習し、積極的なアウトプットを行っていく練習をする。観光英検2級もしくは3級の取得を目指し、ペアワークやグループワークも取り入れながら、実践的なアウトプットの方法を学んでいく。							
学修成果							
観光英検2級もしくは3級の取得を目指す。また、特にインバウンド観光や国際ビジネスの分野での実践的な英語によるコミュニケーション力を養い、ホスピタリティの分野での即戦力を身につける。							
事前学習							
教科書を精読し、新しい英単語や英語表現をチェックしておく。							
事後学習							
授業での学習内容を再度見直し、音読やライティングなどで定着を図る。観光英語検定試験に向けて過去問などで練習を行う。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(講義の内容、目標、評価基準等を説明) 前期で学んだ基礎英語表現の再復習						
第2回	観光での応用英語表現 1 Transportation from the Airport to the Hotel						
第3回	観光での応用英語表現 2 At a Hotel: Explaining a Key Card						
第4回	観光での応用英語表現 3 At a Hotel: Departure by Taxi						
第5回	観光での応用英語表現 4 Greeting a Guest at the Ryokan						
第6回	観光での応用英語表現 5 How to use a Ryokan Bath						
第7回	観光での応用英語表現 6 Dinner Service at the Ryokan						
第8回	観光での応用英語表現 7 Japanese Restaurant						
第9回	観光での応用英語表現 8 Gifts and Souvenirs						
第10回	観光での応用英語表現 9 Bullet Train Tickets						
第11回	観光での応用英語表現 10 Taking a Taxi						
第12回	観光での応用英語表現 11 Sightseeing						
第13回	観光での応用英語表現 12 City Tours in Tokyo						
第14回	観光での応用英語表現 Countries and Currencies						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	授業で学習した内容に基づき、リスニング問題とリーディング問題を合わせた試験				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	出席状況および授業中での積極性、提出物の内容				
その他							
教科書							
English for Tourism Basic(観光英検センター刊)							
参考書							
英語で伝える日本の文化・観光・世界遺産(三修館出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三浦 文貴						
到達目標							
外国人が日本で働く上で必要になる、丁寧な日本語を身につけ、更に語彙力を向上させ、円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築ができるようにする。							
講義概要							
BJT対策に用いるテキストやニュースなどを用い、ビジネスで通用する日本語力を学ぶ。 より自然で、より丁寧な表現を身につけ、ビジネスにおけるあらゆる場面でふさわしい適応ができるように確認する。							
学修成果							
敬語を用いて、職場やビジネスの場にふさわしい表現で円滑に会話ができるようになり、業務に関連する専門用語や日常業務で頻出する日本語表現を習得し、多様な場面で適切な言葉を選んで使用できるようになる。また、自分の考えを分かりやすく丁寧に日本語で伝える能力と、相手の話を正確に理解し適切に応答する能力を身につける。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
各回の内容に合わせた復習(目安1回30分)							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(授業の進め方や目的の確認など)						
第2回	現在の日本語能力の確認テスト(語彙・漢字)						
第3回	語彙・漢字 1						
第4回	語彙・漢字 2						
第5回	語彙・漢字 3						
第6回	語彙・漢字 4						
第7回	ニュース聴解1						
第8回	ニュース聴解2						
第9回	ニュース聴解3						
第10回	聴読解1						
第11回	聴読解2						
第12回	聴読解3						
第13回	聴読解4						
第14回	模擬問題と復習						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
ビジネス日本語オール・イン・ワン							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三浦 文貴						
到達目標							
外国人が日本で働く上で必要になる、丁寧な日本語を身につけ、更に語彙力を向上させ、円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築ができるようにする。							
講義概要							
前期の復習をしながら、BJT対策に用いるテキストやニュースなどを用い、ビジネスで通用する日本語力を学ぶ。より自然で、より丁寧な表現を身につけ、ビジネスにおけるあらゆる場面でふさわしい適応ができるように確認する。							
学修成果							
敬語を用いて、職場やビジネスの場にふさわしい表現で円滑に会話ができるようになり、業務に関連する専門用語や日常業務で頻出する日本語表現を習得し、多様な場面で適切な言葉を選んで使用できるようになる。また、自分の考えを分かりやすく丁寧に日本語で伝える能力と、相手の話を正確に理解し適切に応答する能力を身につける。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
各回の内容に合わせた復習(目安1回30分)							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(前期の振り返り)						
第2回	現在の日本語能力の確認テスト(語彙・漢字)						
第3回	語彙・漢字 1						
第4回	語彙・漢字 2						
第5回	語彙・漢字 3						
第6回	語彙・漢字 4						
第7回	ニュース聴解1						
第8回	ニュース聴解2						
第9回	ニュース聴解3						
第10回	聴読解1						
第11回	聴読解2						
第12回	聴読解3						
第13回	聴読解4						
第14回	模擬問題と復習						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
ビジネス日本語オール・イン・ワン							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		貿易実務I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員 金森尚人							
到達目標							
貿易実務の基本概念を理解し、輸出手続きや貿易契約書について実務レベルでの知識を身につける。また「貿易実務検定C級試験」に必要な基礎知識を身につけ、実務に必要なコミュニケーション能力、交渉力、貿易英語、世界の文化、ビジネス習慣を学ぶ。							
講義概要							
貿易実務の基礎概念と概要を紹介し、「貿易実務検定試験C級」に必要な基礎知識を習得する。国際貿易の重要性を認識し、貿易の基本的な概念を理解させる。日本の貿易政策や国際貿易体制について解説し、日本がどのように貿易を展開しているかを理解。輸出手続きや関連法規について詳細に解説し、実務レベルでの手続きを理解する。貿易契約書や貿易条件について学び、貿易契約の基本的な内容と取引条件を理解する。							
学修成果							
貿易実務検定試験C級に合格のために必要な基礎的な知識と技能を修得し、貿易実務に必要なコミュニケーション能力、交渉力、英語力、世界の文化、ビジネス習慣を身につける。輸出手続きや関連法規についての理解を深める。							
事前学習							
学生が教科書を音読できるように、事前に貿易専門用語や貿易英語を調べておくこと。							
事後学習							
毎回の講義で、貿易実務検定試験に出題される内容を確認、理解し、暗記すること。							
授業計画							
第1回	貿易実務の概要と基礎と概念の紹介「貿易実務検定試験C級」に必要な基礎知識を習得。						
第2回	日本の貿易政策と国際貿易体制の概要 日本の主要な貿易パートナー国と貿易動向の分析						
第3回	輸出手続きと関連法規の解説 「貿易実務検定試験C級」の必須知識を身につける。						
第4回	貿易契約書と貿易条件の理解 「貿易実務検定試験C級」における重要な概念を理解し、応用力を養う。						
第5回	関税と関連する輸入手続きの詳細 「貿易実務検定C級試験」過去問を解き、応用力を養う。						
第6回	貿易リスク管理と国際保険の概要 「貿易検定C級試験」過去問を解き、保険条件、貿易保険英語を学ぶ						
第7回	海上輸送と船荷証券の取り扱い 「貿易検定C級試験」過去問を解き、船荷証券、3大船積み書類を解説						
第8回	航空貨物輸送と航空運賃の基礎 「貿易検定C級試験」過去問を解き、海上輸送、航空輸送の相違点を解説						
第9回	国際物流とサプライチェーン管理の重要性 マーケティングの見地からの重要性を解説						
第10回	貿易のデジタル化と電子商取引の動向 デジタル社会での貿易ビジネスの変化を解説						
第11回	日本の主要な輸出品目とその市場分析 現在の貿易取引状態から市場分析						
第12回	日本の主要な輸入品目とその供給源の分析 現在の貿易取引状態から市場分析						
第13回	輸出企業と輸入企業の実務事例の紹介 世界の政治、経済状況から外国為替相場を開設し、輸出入の現状を分析						
第14回	貿易実務に関するケーススタディとグループディスカッション 前期講義のフィードバックなど						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)		20					
その他		20					
教科書							
片山立志著 「貿易実務の本」成美堂出版							
参考書							
貿易検定C級試験 過去問							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年生					
科目名		貿易実務II					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員		金森尚人					
到達目標							
貿易実務検定試験C級合格に向け、知識と技能を習得し、実務レベルでの問題解決能力を向上させる。貿易実務におけるリスク管理やコンプライアンスの重要性を理解し、貿易関連の紛争解決や金融取引について高度な知識を獲得する。							
講義概要							
貿易実務におけるリスク管理やコンプライアンスに焦点を当て、「貿易実務検定試験C級」における高度な知識を身につけます。貿易紛争やその解決方法について学び、「貿易実務検定試験C級」に合格すべく、問題解決能力を向上させる。貿易関連の金融取引や支払い手続きについて学び、実務的な知識を修得する。貿易協定や自由貿易協定に焦点を当て、「貿易実務検定試験C級」の範囲に沿った理解を進める。							
学修成果							
貿易実務検定試験C級資格獲得のため必要な高度な知識と技能を身につけ、複雑な貿易手続きやリスク管理に関する理解を深め、実務での活用が可能な能力を獲得する。金融取引や政府支援策に関する高度な知識を習得し、実務レベルでの貿易活動を遂行できる能力を身につける。							
事前学習							
学生が教科書を音読できるように、事前に貿易専門用語や貿易英語を調べておくこと。							
事後学習							
毎回の講義で、貿易実務検定試験(貿易実務、貿易英語)に出題される内容を確認、理解し、暗記すること。							
授業計画							
第1回	貿易実務におけるリスク管理とコンプライアンス 金融リスク、物流リスク、法務リスク、貿易実務検定試験C級過去問						
第2回	貿易紛争と紛争解決のメカニズムの解説 交渉と協議、国際機関への申し立て、制裁や報復措置の導入 貿易実務検定試験C級過去問						
第3回	貿易関連の金融取引と支払い手続きの考え方 「貿易検定C級試験」過去問題を解き、金融取引、支払い手続きの実務 貿易実務検定試験C級過去問						
第4回	貿易協定と自由貿易協定の影響 市場アクセスの拡大、産業構造の変化環境への影響 貿易実務検定試験C級過去問						
第5回	輸出入業務における文化的側面と留意点 「貿易実務C級検定試験」過去問より検証 貿易実務検定試験C級過去問						
第6回	日本の輸出入関連組織とその役割の紹介 貿易振興機構(JETRO) 貿易実務検定試験C級過去問						
第7回	貿易実務におけるコミュニケーション戦略とスキル ビジネス英語におけるコミュニケーション能力の向上 貿易実務検定試験C級過去問						
第8回	環境貿易と持続可能な開発目標(SDGs)の関連性 貿易実務検定試験C級過去問						
第9回	技術革新と貿易の未来への影響 アセアンと東アジアのビジネス展望 貿易実務検定試験C級過去問						
第10回	日本の貿易における地域的特性と課題 依存度の高い貿易、高度な技術と付加価値の輸出、貿易バランスの悩み 貿易実務検定試験C級過去問						
第11回	貿易におけるデータ分析とビジネスインテリジェンスの重要性 市場動向の理解、競争力の獲得とリスク管理 貿易実務検定試験C級過去問						
第12回	輸出入ビジネスにおけるマーケティング戦略 国際市場で競争力を持ち、販売を促進するための計画やアプローチ 貿易実務検定試験C級過去問						
第13回	貿易実務に必要なコミュニケーション、ビジネスメール、貿易英語、交渉力を解説し、英語でのビジネス英語を指導 貿易実務検定試験C級過去問						
第14回	貿易実務の総まとめとフィードバック 貿易実務検定試験C級過去問						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		20					
その他		20					
教科書							
片山立志著「貿易実務の本」成美堂出版							
参考書							
貿易検定C級試験 過去問							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		財務分析Ⅰ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	鈴木啓悟						
到達目標							
財務諸表3表の成長性及び伸び率、安全性、収益性、キャッシュフロー、一株当たり、一人当たりの分析の意義と計算方法を学ぶことで、実際の日本の業界・企業ごとの優劣を比較することや将来予測の手法を身に着けることができる。							
講義概要							
2年次前期で学んだ会计学総論の知識を生かし、財務諸表分析の関係者、基本体系や分析結果の判断、基礎データを知り財務諸表分析の基本を学習する。特に、成長性及び伸び率、安全性・収益性・キャッシュフロー・一株当たり・一人当たり分析を詳細に学び、かつ単なる財務諸表分析の暗記や抽象的解釈にならないように図解や例題問題を交えて学習理解を深める。また、理解度の確認のために質疑応答による双方向の講義進行に努める。							
学修成果							
財務3表の分析の意義と計算方法を学ぶことで、様々な業界、企業における「会計実務」に役立つと同時に、財務・会計の基本知識の習得で「ビジネス会計検定試験3級」の資格獲得に生かせる。							
事前学習							
講義内容にある財務分析の用語理解とテキスト内の計算式の練習(0.5h)							
事後学習							
講義内容で学んだ財務分析の用語理解とテキスト内の計算式の練習(1h)							
授業計画							
第1回	第1・2節 財務分析とは、財務諸表分析の関係者と対象						
第2回	第3・4節 財務諸表分析の基本体系、分析結果の判断のための基準						
第3回	第5・6節 基本分析: 百分比財務表分析、分析のための基礎データ						
第4回	第7節 成長性および伸び率の分析 会社は伸びているか①						
第5回	第7節 成長性および伸び率の分析 会社は伸びているか②						
第6回	第7節 成長性および伸び率の分析 会社は伸びているか③						
第7回	第8節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう①						
第8回	第8節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう②						
第9回	第8節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう③						
第10回	第8節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう④						
第11回	第10節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか①						
第12回	第10節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか②						
第13回	第10節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか③						
第14回	第10節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか④						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級」(中央経済社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		財務分析Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員 鈴木啓悟							
到達目標							
財務諸表3表の成長性及び伸び率、安全性、収益性、キャッシュフロー、一株当たり、一人当りの分析の意義と計算方法を学ぶことで、実際の日本の業界・企業ごとの優劣を比較することや将来予測の手法を身に付けることができる。							
講義概要							
2年次前期で学んだ会計学総論の知識を生かし、財務諸表分析の関係者、基本体系や分析結果の判断、基礎データを知り財務諸表分析の基本を学習する。特に、成長性及び伸び率、安全性・収益性・キャッシュフロー・一株当たり・一人当たり分析を詳細に学び、かつ単なる財務諸表分析の暗記や抽象的解釈にならないように図解や例題問題を交えて学習理解を深める。また、理解度の確認のために質疑応答による双方向の講義進行に努める。							
学修成果							
財務3表の分析の意義と計算方法を学ぶことで、様々な業界、企業における「会計実務」に役立つと同時に、財務・会計の基本知識の習得で「ビジネス会計検定試験3級」の資格獲得に生かせる。							
事前学習							
講義内容にある財務分析の用語理解とテキスト内の計算式の練習 (0.5h)							
事後学習							
講義内容で学んだ財務分析の用語理解とテキスト内の計算式の練習 (1h)							
授業計画							
第1回	第9節 キャッシュフロー情報の利用			活動別キャッシュフローと増減パターン			
第2回	第11節 1株当たり分析①			株価は高いか			
第3回	第11節 1株当たり分析②			株価は高いか			
第4回	第11節 1株当たり分析③			株価は高いか			
第5回	第11節 1株当たり分析④			株価は高いか			
第6回	第11節 1株当たり分析⑤			株価は高いか			
第7回	第1回小テスト						
第8回	第12節 1人当たり分析			労働効率はどうか			
第9回	第13節 平均指標・標準指標の参考値① 利用可能な指標集						
第10回	第13節 平均指標・標準指標の参考値② 安全性の指標						
第11回	第13節 平均指標・標準指標の参考値③ 収益性の指標						
第12回	第13節 平均指標・標準指標の参考値④ 1株当たり分析の指標						
第13回	第14節財務諸表分析の展開①						
第14回	第14節財務諸表分析の展開②						
第15回	第2回小テスト						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		50					
期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)		50					
その他		0					
教科書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級」(中央経済社)							
参考書							
大阪商工会議所「ビジネス会計検定試験 公式過去問題集3級」(中央経済社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		課程演習 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
日本の企業文化を理解するとともに、企業の海外進出のフェーズが理解できるようになること。そして、自国に進出している日系企業について分析できるようになる。							
講義概要							
本講義では、Japan as No.1と謳われた日本的経営について考察していく。日本的経営方法は現在の日本企業にも踏襲されている部分も多い。本校卒業後、日本企業に就職する学生にとっては、理解しておかなければならないシステム、考え方を解説していく。							
学修成果							
本講義を受講することで、日本企業文化が理解でき、自身が日本企業で働く際に対応できる知識が身につくようになる							
事前学習							
特になし							
事後学習							
講義で学習した内容の整理							
授業計画							
第1回	オリエンテーション：日本的経営とは何か						
第2回	日本的経営①：人的管理について						
第3回	日本的経営②：組織の制度と構造						
第4回	日本的経営③：従業員の意識						
第5回	日本的経営④：経営戦略						
第6回	日本的経営⑤：日本の産業構造について						
第7回	中間テスト：日本的経営①～日本的経営⑤までの総復習問題の演習						
第8回	日本企業の海外進出①：戦後の日本経済史（為替を中心）						
第9回	日本企業の海外進出②：海外進出の段階について						
第10回	日本企業の海外進出③：海外進出の方法						
第11回	日本企業の海外進出④：企業の海外戦略						
第12回	日本企業の海外進出⑤：ケーススタディ①SONY						
第13回	日本企業の海外進出⑥：ケーススタディ②NISSAN						
第14回	日本企業の海外進出⑦：ケーススタディ③ヤクルト						
第15回	確認テスト						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60					
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40					
その他							
教科書							
適宜、プリント等を配布							
参考書							
特になし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
「消費」とは何か、購買プロセスやライフスタイルの変化が与える影響は何かということを事例を用いながら学び、今後、どのようにしてビジネスに活かしていくことができるかを考えることを目標としていく。							
講義概要							
経済が時代とともに変化するのと同じように、消費者の心理や行動も変化してきている。本講義では、消費者行動の歴史をもとに、様々なモデルを用いて消費者心理を学んでいく。また、どのように消費者へアプローチしていくか、マーケティング的視点も用いながら理解を深めていく。							
学修成果							
消費者の購買行動を中心に学ぶことで、消費者心理を理解できるようになる。そのため、接客業の仕事に就いた際に顧客視点で物事を考えて行動できるようになる。							
事前学習							
事後学習							
授業計画							
第1回	消費者行動論とは①:消費者行動論の歴史						
第2回	消費者行動論とは②:ELMモデル						
第3回	消費者が行動に至るまでの過程①: (AIDMA・AISAS)						
第4回	消費者が行動に至るまでの過程②: (AISEAS・SIPS・DUALAISEAS)						
第5回	高度経済成長期の消費者行動						
第6回	バブル期前後の消費者行動						
第7回	平成の消費者行動①						
第8回	平成の消費者行動②(コト消費・トキ消費・イミ消費)						
第9回	非計画購買と衝動購買						
第10回	ケーススタディ②						
第11回	ライフサイクルアプローチ・ライフコースアプローチ						
第12回	試験前対策①						
第13回	試験前対策②						
第14回	試験前対策③						
第15回	確認テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他							
教科書							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際貿易コース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高橋 雅巳						
到達目標							
企業では、簿記のスキルだけでなく規則や法律の知識が必要になる。また、正しい報告を行うために適切な会計処理についてつかいし、真実な会計報告とは何かを理解できるようにする。							
講義概要							
現代のビジネス・スキルに不可欠となっている簿記の知識をさらに一歩高め、なぜそのような会計処理を行うのかといった理由や会計処理の違いによって生じる長所、短所などを理解することにより、会計の基本から実務で活用する技術までを解説する。							
学修成果							
財務諸表がどのように作成され、何を報告するのか、だれに報告するのかを確認し、なぜ必要なかを企業内外の理解できるようにする。							
事前学習							
特になし							
事後学習							
特になし							
授業計画							
第1回	会計学とは 数量・単価に関する計算 個別法 先入先出法						
第2回	平均法(移動平均法 総平均法) 最終仕入原価法						
第3回	売価還元法 商品評価損 企業会計原則 継続性の原則						
第4回	固定資産 取得原価 耐用年数 残存価額 備忘価値 定額法 新定額法						
第5回	旧定率法 250%定率法 200%定率法 定率法の長所と短所						
第6回	級数法 生産高比例法 取替法 法定耐用年数						
第7回	引当金の定義と種類 貸倒引当金 一般債権						
第8回	貸倒懸念債権 破産更生債権等の引当金設定						
第9回	損益計算書の作成 勘定式と報告式 売上高の部						
第10回	損益計算書の作成 売上原価 販売費および一般管理費						
第11回	損益計算書の作成 営業外損益 特別損益項目						
第12回	損益計算書の作成 総合問題演習1 初級編						
第13回	損益計算書の作成 総合問題演習1 中級編						
第14回	損益計算書の分析 収益性の分析 2社比較						
第15回							
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他							
教科書							
参考書							